

滝勝寺（りゅうしょうじ） 熊内町2丁目



俗に滝寺といわれ、山号を布引山と号し、真言宗の寺院である。この寺は熊内八幡神社の北裏にあったが、1920（大正9）年に現在地に移った。移転以前のこの寺は熊内八幡の北の字東山（観音山）を中心に、西は徳光院から布引雄滝あたり、南は神若通あたりまでを勢力範囲として、

末寺や支坊が多くあり隆盛をきわめていた。そして、今でも残る口円光坊、奥円光坊、寺ヶ谷、教ノ尾、滝寺山といった字名は、むかしこの一帯に寺の堂塔伽藍があったことの名残であろう。なお、江戸時代に書かれた『摂津名所図会』からその頃の様子がうかがえる。さて、寺の縁起によれば、この寺は文武天皇の時代（697～706年）、役行者（えんのぎょうしゃ）が布引滝に入り修行中、馬頭観音があらわれ、その靈感を得て創建されたものであるという。また、平清盛が福原遷都をした時、葺屋庄内300戸を寺領として賜わり、後、花熊城の戦いにおける荒木村重の乱で寺は焼け、その後復興したという。

場所：熊内町2丁目 1-42